

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <最終評価>

令和8年2月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	評価の観点 【】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定				アンケート結果より (R7.12実施)	学校関係者評価 (会議R8.2.13)
				1	%	1+2	%		
1 学力向上に向けた計画的実践	(1)学力向上に向けた授業改善等	<p>【生】授業がわかりやすい。</p> <p>【保】学校は、分かりやすい授業や学力向上(学習内容の定着)に努めている。</p> <p>【教】活用力(思考力・判断力・表現力)を高める指導を行っている。</p>	<p>A 40%・85%以上</p> <p>B 35%・80%以上</p> <p>C 30%・70%以上</p> <p>D 30%・70%未満</p>	A	44	A	97	<p>◎年度当初に研究の重点や共通実践等について校内研修を実施し、全教科で研究の方向性について共通理解を行った。また、全校集会において、生徒と教職員が共通理解をする場を設定したことが、高い評価となっている。</p> <p>全体を通して、生徒の評価ポイントが高いと感じている。これは、管理職がリーダーシップをとり、組織的な結果が出ているのではないかと思う。さらに一人一人の教員が研鑽を積んで、生徒のため、学校のために尽力してほしい。</p> <p>○2、3年生の肯定回答は高く、取組の振り返りから、他者とともに学ぶ楽しさを答える生徒が多い。○学習のポイントや授業で大切にしたいこと等について、全校集会で共通理解をしたことで、年度のスタートがスムーズであった。</p> <p>▼1年生の肯定回答が他学年に比べて低く、他者との関わり方、学習規律に困難を感じる生徒が多いと感じており、自分の考えを「書く・話す」ことで相手に伝えたいような場を工夫していきたい。</p> <p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための効果的なツールとしてICT機器を活用していくことが大切であり、さらに教科部会の充実を図っていきたい。</p> <p>○昨年、一昨年と大きな変化は見られない。今年度は前後期において相互授業参観を実施し、他教科を参観することによって、授業づくりや授業の流れの意識が高まった。</p> <p>▼「学習内容の振り返り」は意識できているが、「学び方の振り返り」について、今後検証が必要である。</p> <p>SNSの使用時間が増えていることが心配である。最近では個人情報悪用した犯罪も多くなっている。学校も警察と連携しながら、子ども達に指導してほしい。</p>	
		<p>【生】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。(R7県目標値:95%)</p> <p>【生】授業では、他者と協力して問題解決している。<カリ・マネの柱></p>	<p>A 50%・95%以上</p> <p>B 40%・85%以上</p> <p>C 30%・75%以上</p> <p>D 30%・75%未満</p>	B	37	B	93		
	(2)GIGAスクール構想の推進	<p>【教】授業中にICTを活用して指導することができた。(R7県目標値:100%)</p>	<p>A 40%・70%以上</p> <p>B 30%・60%以上</p> <p>C 20%・50%以上</p> <p>D 20%・50%未満</p>	A	40	A	85		
	(3)学力向上ロードマップに基づく取組の推進	<p>【教】学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導を行っている。</p> <p>【教】「まとめ・振り返り」、「適用・活用」を意識した授業実践に努めている。</p>	<p>A 60%・90%以上</p> <p>B 50%・80%以上</p> <p>C 40%・70%以上</p> <p>D 40%・70%未満</p>	D	30	A	94		
<p>【生】自分で計画を立てて勉強している。(R7県目標値:75%)</p>		<p>A 40%・90%以上</p> <p>B 30%・80%以上</p> <p>C 20%・70%以上</p> <p>D 20%・70%未満</p>	B	36	C	78			

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <最終評価>

令和8年2月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	評価の観点 【】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定				アンケート結果より (R7.12実施)	学校関係者評価 (会議R8.2.13)
				1	%	1+2	%		
2 生徒指導の 充実	(1)積極的な生徒指導の推進(認めて、褒めて、伸ばす)	【生】自分には、よいところがあると思う。(R7 県目標値:80%)	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	43	A	89	大切なことは「学校が楽しい」「自分には良いところがある」と感じると思う。ぜひこれまで宇ノ気中が実施していることを続けてほしいと思う。	
	(2)いじめ・不登校への適切な対応	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B	51	A	97		
		【保】学校は「学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組」を発信している。	A 40%・85%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	C	29	C	79		
	(3)基本的な生活習慣を高める指導の徹底	【生】学校でしっかりとあいさつや会釈ができている。 【保】わが子は家庭であいさつをしている。 【教】生徒は、学校でしっかりとあいさつや会釈をしている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	61	A	97		
				A	62	A	93		
(4)教育相談の充実	【生】自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり、相談したりできる先生がいる。 【保】学校は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。 【教】生徒の努力したことを褒めたり、認めたりしている	A 40%・90%以上 B 35%・85%以上 C 30%・80%以上 D 30%・80%未満	A	40	C	81			
			D	28	D	77			
			A	67	A	100	学校においてチームを組んで、手立てを講じている様子が伝わっている。これからも不登校を減らす努力を続けてほしい。		

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <最終評価>

令和8年2月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	評価の観点 【】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判定				アンケート結果より (R7.12実施)	学校関係者評価 (会議R8.2.13)
				1	%	1+2	%		
3 信頼される学校づくり	(1)コミュニティ・スクールの推進	【教】学校は、地域の外部人材等を積極的に活用している。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	B	40	A	94	○昨年度に引き続き、地域人材の活用を進めており、生徒への教育効果は大きいと感じている。後期は、キャリア教育を中心として、地域人材を活用し、より効果的な取組や実践を行っていきたい ◎肯定回答率は、例年高い水準となっている。今後も、コドモンや学校ホームページを通して、分かりやすい情報発信に取り組んでいきたい。 ※ホームページカウント数: 6,200,000アクセス、 1日約1,700~2,000アクセス	
	(2)積極的な情報発信と学校公開	【保】学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校の指導方針や子どもたちの様子等を知ることができる。	A 40%・90%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	44	A	96		
	(3)小中・中中連携の推進	【教】小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D	22	A	100		
4 教員の人材育成	(1)若プロの計画的実践	【教】学年会を中心とした若プロにおいて、職員全体で若手を育てようとしている。	A 60%・80%以上 B 50%・70%以上 C 40%・60%以上 D 40%・60%未満	A	60	A	100	◎R6と比較して10ポイント、R7前期と比較して5ポイント上昇した。学年会のチーム力が少しずつ高まり、支え合いの文化が醸成されている傾向にある。そのことが徐々に学校全体に波及しているのではないかと考える。また、学校全体で若手を育てようとする文化も上昇傾向である。 最近では、教員を志望する人が少なく、倍率が低くなるほど、熱心な先生も少なくなり、教育活動の力の分散が出てしまうが、宇ノ気中学校はとても頑張っている。生徒・学校を「支える」ことを若手を中心に改善に努めていることがわかるので続けてほしい。我々も、地域の中でも支援・応援をしたいと思っている。	
5 教職員多忙化改善に向けた取組の推進	(1)業務の効率化を図るための取組の推進	【教】自己の役割が明確で、職務を円滑に遂行しようとしている。 【教】効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	40	A	100		
				C	31	A	95		